

ときめき人

Tokimeki bito



登米市は「星どころ」 豊かな自然と 星空を通じて 「人どころ」にしたい

追町佐沼出身

ワダー博士

本名、生まれ年などは非公表。

Profile

自然と星を通じて、登米市の魅力や価値を発信している。星と子どもが大好きで、得意なことは「教材づくり」で、欲しいものは「移動式プラネタリウム」。星空観察会に興味がある人は、故郷まちづくりナイン・タウンまで。☎0220(44)4301



開発中のオリジナルカードゲーム「スターカードゲーム」。写真や挿絵は、市内の愛好者や高校生が提供している。

星や月がデザインされた帽子を被り、白衣の男性が「皆さん、登米市はすごく星がきれいなまち。それも、全国でトップクラスなんですよ」と話す。

男性の名はワダー博士。特定非営利活動法人故郷まちづくりナイン・タウンの星空観察会で、星の魅力と登米市の自然の豊かさを伝えている。

岩手県南から福島県にかけては、星空がきれいなスポットとして、アマチュア天文家たちに知られている。星の専門家も「登米市は本当に星がきれいなところ」と認めるところだ。ワダー博士は「登米市は『米どころ』であり『星どころ』なんです」とにっこり。

星空観察会は2012年11月にスタート。オリジナルの教材を使った内容が「初めてでも分かり

やすい」と好評を得ている。

例えば、ビー玉を地球に見立て、その縮尺に合わせた月を準備。月と地球の距離は約38万キロ。約70分の定規の両端に、地球と月が置かれている「宇宙定規」を開発し、距離を「見える化」してある。「専門的なことを話しても、興味を持ってもらえないので、目で見て感じ、一緒に楽しんでます」。

博士が伝えたいのは、星空や自然の素晴らしさだけではない。「みんなで、宇宙定規を両端から見ている姿はほほ笑ましいですね。観察会の後は、参加者同士のつながりが深まっていますよ」。「人はつながることで、もっと豊かになる」。

「登米市を『米どころ』『星どころ』そして『人どころ』にしたいな」。ワダー博士の野望は尽きない。

編集後記

▼最近、TOMeで紹介した人たちが、テレビなど別メディアで紹介される機会が増えている。取材対象者が再度取り上げられることは、広報担当として何よりの喜び。「努力は報われる」という言葉を思い出した。2018年も、これまで通り頑張っている人たちに応援していきたい。(及川)

▼全国の広報担当者研修に参加しました。日々、市民に伝わる広報広聴を模索しながら努力している仲間の姿に深く感銘を受け、自分も切磋琢磨していきたいと思いました。そして、この研修に参加するため、背中を押してくれた職場の皆さんに、感謝したいと思います。(千葉)

▼2018年の干支は戌年。17年は酉年でした。鳥で思いだしたおばあちゃんたちの会話。「おらいで鳥っこいっぺいっから、けっから」「なんぼしゃ？」「いいせん、いいせん」「なんだべ安心だ、千円でいやすのすか」ちょっとほっこりした病院待合室でのひととき。(伊藤)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>

